

里山学びと交流の森検討会報告書

「里山学びと交流の森づくりの基本的方向」の概要

1 はじめに

愛知県は、平成12年8月に「里山学びと交流の森づくり」の基本方針を発表し、海上の森の保全と活用については、人と自然の豊かな関係づくりをめざす愛知万博の取組を継承し、ここを訪れる人々が自然の営みへの関心や理解を深めるとともに、心の豊かさや楽しみを育む場をめざすこととした。

この検討会においては、里山としての「海上の森」の位置づけ、持続的な里山維持のための里山学びと交流の森づくりのくらしの再生・復元の可能性、森林保全のあり方などを中心に議論した。

さらに、里山一般としてではなく、「海上の森」としての特徴をどのように生かし、保全と学習の場を確保するかなど、引き続き検討すべき課題は多い。

これらは、今後の活動組織が、具体的にしかも持続的に実践の中で明確化すべき問題であり、その観点からも早急に地元を中心に、広範な活動者が参加できる里山保全実践組織を立ち上げるべき時が来ている。

今後、この基本的方向をベースとして、さらに実践活動・交流・学習などの積み重ねを経て、多くの皆さんに愛され・親しまれる「海上の森」となるよう、愛知県及び地元自治体の積極的な施策が求められるところである。

2 「里山学びと交流の森づくり」の理念と基本的な取組の方向

【理 念】

里山学びと交流の森づくりは、県及び県民自らが、海上の森の特性を活かし、博覧会の成果と取組を継承しつつ、この地の自然、先人の知恵、古からの技術、地域の生活術から学び、幅広い多様な人々が、自ら様々な活動や勤労を通して学習し参加交流する新しい県民活動の場を提供する。その試みは、海上地区の生活・文化・自然を歴史的に検証・維持すると同時に海上の森ならではの里山文化を新たに創りあげ、豊かさが実感できる人間性の回復と、循環型社会の形成の糸口を探り、この取組や成果を発信する活動拠点を目指すものとする。

【基本的な取組の方向】

農地・集落を中心とした里の地区とその周辺を取り巻く森林の一体とした環境を適切に保全整備し、愛知万博の成果や取組を継承しつつ活用を図る。

ここを訪れる人が、海上の森とのふれあいや体験学習活動、農作業体験活動、地元の人や地域文化との交流やふれあい活動を通して、里山の保全や森林との関わりへの理解を深め、心の豊かさや楽しみを育む場とする。

幅広い層の人が、参加・交流・学習する県民主体の活動の場とする。

海上の森を次のゾーンに区分し、その特性に沿った保全と活用を図るものとする。

ゾーンとその区域

ゾーン名(仮称)	区 域	ゾーンの特徵
施設ゾーン	拠点施設・ゲート施設一帯	拠点・ゲート・管理
ふれあいの里ゾーン	集落・農地を中心とした区域	里山保全活動・農作業体験
生態系保護ゾーン	屋戸川・寺山川流域及びその北部の区域	動植物の生息・生育環境保護
恵みの森ゾーン	北側一帯の広葉樹林を主体とした区域	多様な森林との関わり
循環の森ゾーン	人工林を中心とした区域	森林資源の育成と活用
野鳥・古窯の森ゾーン	吉田川流域の広葉樹林を主体とした区域	観察・散策・学習

3 博覧会開催までの取組

森の地区、里の地区の整備

森の地区は、人工林の手入れや竹林の整備などを進める。また、里の地区は、里山での農作業体験などが進められるよう、休耕田の維持管理や水路補修などを行う。

施設の整備

里山学びと交流の森拠点施設（博覧会開催時は県出展施設）、ゲート施設（里山遊歩ゾーン）、古窯展示保存施設を整備する。また、遊歩道、休憩所、案内板等を整備する。

県民参加のシステムづくり

県民主体による里山学びと交流の森づくりを進めるため、県民が自主的に参加する「里山学びと交流の森づくりの会（仮称）」を設置し、県民参加システムを構築する。

4 博覧会開催時の活用

県、自主的な活動体及び「里山学びと交流の森づくりの会（仮称）」との連携により、人と自然の関わりを探究する様々な活動プログラムを展開する。

森の地区・・・森林環境教育学習・森づくり活動・自然観察活動・生態系保全活動など

里の地区・・・農作業体験・里山保全活動・歴史や文化の探訪活動など

5 博覧会後の取組

恒久施設の整備

里山学びと交流の森の拠点施設は、展示教育・参加交流・調査情報機能をもった施設とする。

その施設規模は、1,500㎡程度とし、多目的ロビー・展示室・研修室・工作室・情報ライブラリーなどを備えたものとする。

ゲート施設は、駐車場・案内所・展望台などを備えた施設とする。古窯展示保存施設も活用する。

里山学びと交流の森づくりの会（仮称）が、森林環境教育学習・森づくり・自然観察・農作業体験などの活動や、拠点施設等の一部運営の一翼を担うよう、その取組を強化するとともに、県との役割分担を明確にし、連携・協働を図るため、この会の組織強化並びに県と一体となった管理運営体制づくりを推進するものとする。

里山をキーワードとした循環型社会の構築や自然環境と調和した新しいライフスタイルを探る取組を拡げていくことを目指す。

社会教育や学校教育における環境教育や自然学習などのフィールドとして活用し、自然と共生していくことの豊かさを実感する感性のある人間性の回復をめざす取組を進めていく。

海上の森を核とした幅広い活動を、地域社会への影響を高める取組とすることにより、社会システムそのものへの波及を追求する。

長期的整備の観点から、里山の保全、生物多様性の保全、自然環境の保全、山地災害の防止、森林の育成整備などの取組を進める。